

幸手市立上高野小学校 学力保障グランドデザイン

幸手市の到達指針

【全国学調】

- 平均正答率

【埼玉県学調】

- 学習方略・非認知能力の平均値
- 学力が伸びた児童生徒の割合

本校の学力の現状と考察

現状	考察
①全国学調 (平均正答率) 全国平均を大きく上 回っている。	全国平均、県平均を大きく上 回ってはいるが、多くの情報 から必要な情報を整理したり、 身近な場面から問いを見いだ し解決したりする問題解決的 な授業を展開していく必要が ある。
②埼玉県学調 ・学習方略・非認知能力 県平均を上回る項目が 9割を超えている。→ ・学力の伸び 県平均と同等である。 小5の国語は上回っ ている。	支持的風土のもと、心理的安 全性が確保されてきたことに より学習方略・非認知能力が 高まってきていると考えられ る。
③幸手市統一学力調査 (平均正答率) 小5を除き、他学年で は全国以上となっている。	学力の伸びは見られるものの、 二極化が強く見られる。また、 応用や活用で課題が見られる ことから、個に応じた指導を 丁寧に行い、学びでの気づき を含め、振り返りを確実に 行っていく必要がある。

「挑戦と創造」～主体的に考え、よりよく実践できる「自立した学習者」を育みます～

学校全体での取組



※ 読書活動の推進

図書館協力員や市立図書館等と連携し、国語科の学習内容に関連した本に進んで親しめるようにし、読書活動を推進することで、「国語力」の向上を目指す。また、月1回「家読」を実施し、保護者と連携しながら家庭でも積極的に読書をするよう促す。

※ 学力向上日課の実施

年3回、学力向上週間を設ける。その期間中、学力向上の時間を毎朝設定し、全職員で指導にあたり、コバトン問題集やパワーアップシート等に取り組ませる。

※ 児童の「挑戦」を支え、励まし、目標達成まで見届ける指導

「幸手市確認テストA・B」や「漢字50問テスト」、「かけ算九九検定」などに合格できるよう、全員に「挑戦」させ、合格するまで励まし支援する。合格したら、校長からミニ賞状や特製缶バッジを贈呈する。これを通して、学びに向かう力を育てる。

落ち着いた 学級づくり



※ 「道徳教育」の充実

道徳科授業を要として、全教育活動を通じた道徳教育の充実を図り、学び合い、高め合える、支持的風土のある心理的安全性が保たれた学級をつくる。

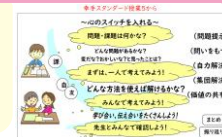
※ 生活習慣、規律、集団づくりの推進

「早ね、早起き、朝ごはん」の重要性を児童・保護者に周知し、生活習慣の徹底を図る。また、特別活動(学級会活動)を重視し、話し合いの質を高めるとともに、好ましい人間関係に基づく学年・学級文化を創造する。

※ 教育相談の充実

相談員・SC・SSW等との連携を図り、チーム対応を徹底し、一人一人の児童・保護者の思いの傾聴に心がけ居がいを感じる学級づくりをする。

学びを深める 授業づくり



※ 幸手スタンダード授業V with GIGAを意識した問題解決的な授業展開

ICTを効果的に取り入れながら、問いをもち、「個の学び—学び合い—まとめ—振り返り」という一連の流れを意識した問題解決的な授業を共通実践できるようにする。

※ 児童同士が互いに学び合う授業への転換

教師の言葉を削減し、児童同士の話し合いの質を高め、学び合うことを重視した授業への転換を図る。それとおして、国語科を核として本校が捉える「国語力」を身に付けさせる。

※ 国語科を中心とした語彙力向上の取組

国語科の授業の冒頭には、「漢字の学習」や「辞書引き」などの語彙力や言語能力を高める学習活動(ぐんぐんタイム)を単元的に位置付ける。また、中学年以上では、どの教科でも辞書を活用し、教科横断的に語彙力を高める。

学校間連携・ 家庭連携



※ 西中学校区の小小・小中連携強化

「読解力を高め、他者と対話しながらよりよく課題解決できる児童生徒」を学力向上面での西中学校区の目指す児童生徒像とし、年数回、互いの学校の授業を参観し合い、9か年を見通した学力向上の取組について協議していく。

※ 西中学校区児童生徒の非認知能力の育成

グランドビジョンに示す「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」「地域・社会に貢献する力」の4つの力を学校評価項目にし、学力向上の基盤となる非認知能力の向上を図る。

※ 家庭学習強化週間の実施

各学期に実施。県学・全学に関連する類似問題や、前年度からの課題を克服するためのプリント等を家庭学習に取り入れる。保護者には、家庭学習の見届けや助言、振り返りの際のコメントをもらう。